

- 「NICTけいはんな研究所」創設のご案内
—ユニバーサルコミュニケーションの産学官連携拠点の一層の強化に向けて—
- 平成20年4月1日

独立行政法人情報通信研究機構(以下「NICT」という。理事長:宮原 秀夫。)は、平成20年4月1日、京都の南端、大阪、奈良に隣接する関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)に、知識創成コミュニケーション研究センター*1とユニバーサルメディア研究センター*2を擁する「けいはんな研究所」(研究所長:榎並 和雅)を新設しました。

この研究所は、産学官連携により、音声・言語コミュニケーションや流通する情報の信憑性の研究、立体画像などの超臨場感通信の研究など、日本文化発祥の地にふさわしく、人と人とのコミュニケーションをもっと豊かなものにするための研究開発を、けいはんな地域における重要な研究拠点として進めていきます。

これらの研究をとおして、豊かな情報通信ネットワーク社会を実現し、技術の社会還元や人材育成を促進してまいります。



NICTけいはんな研究所
(〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台3-5)

(参考URL)

*1; <http://kccc.nict.go.jp/> : 知識創成コミュニケーション研究センター

*2; <http://www2.nict.go.jp/x/x152/index.html> : ユニバーサルメディア研究センター

< 広報問い合わせ先 > < 本件に関する 問い合わせ先 >

総合企画部 広報室

室長 栗原 則幸

Tel:042-327-6923

Fax:042-327-7587

けいはんな研究所

事務長 高橋 幸雄

Tel:0774-98-6810

Fax:0774-98-6955

けいはんな研究所の目指すもの

いつでも、どこでも、大容量の情報を流通させることができる情報通信基盤が整備されつつあります。しかしこの通信基盤を活用すれば、「だれとでも、多様な」情報を自由自在にやりとりできるかという観点から見ると、様々な「壁」があることに気がきます。たとえば、

言語の壁: インターネットを使えば世界中の情報にアクセスはできますが、言葉が分からないため折角の情報が有効に利用できず、また円滑にコミュニケーションを図ることもできません。

情報の質の壁: インターネット上には価値ある情報だけでなく、誤った情報や、場合によっては人を騙すための情報などが含まれ、膨大な量の情報から真に信頼でき役立つものをうまく選別することが必要です。

能力の壁: 高機能化、多機能化によってシステムの操作が複雑になり、よほどの知識・経験がないと複雑化したシステムを使いこなすことができなくなっており、デジタル・デバイドが広がってきています。

サイバー社会と実社会との壁: 情報ネットワーク社会の重要性が増すに連れ、情報ネットワーク社会と実世界における情報の不整合が大きな問題を引き起こすこととなり、両者をリアルタイムかつシームレスに繋ぐための技術、システムの開発に対する要望が高まっています。

距離の壁: 少子高齢者、環境問題などの社会的課題を解決するために、これまでの文字・音声を中心としたテレコミュニケーションから五感を伝送する超臨場感通信へと進展させることによって、距離や時間の壁を乗り越え、あたかもその場にいるかのように感じられる環境が求められてきています。

これらの壁は、情報ネットワークシステムが発展すればするほど、その存在がより顕在化することとなります。けいはんな研究所では、こうした壁を打ち破り、より人間中心のコミュニケーション環境を実現することを目指して、「ユニバーサルコミュニケーション」という基本コンセプトのもと、積極的に研究推進していきます。

【研究開発技術の例】



超臨場感技術(例 立体放送)



多言語翻訳技術